

《 2004年 バンコク宣言 》

共同声明

2004年(2547年)5月25日

於 タイ国、ナコン・パトム、ブッダモントン
ウェーサクの日の国際的認知に関する
世界仏教指導者会議

2004年(2547年)のウェーサクの日の国際的認知

2004年(2547年)5月25日にバングラデシュ、ブータン、カンボジア、中華人民共和国、インドネシア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、シンガポール、スリランカ、そして、タイ国から、タイ国、ナコン・パトムのブッダモントンに集まった私達、ウェーサクの日の国際的認知に関する世界仏教指導者会議の参加者は、

毎年5月の満月の日であるウェーサクの日が、国際的に認知されること、また、特に、国連本部と他の国連事務所において、タイ国の政府とサンガ長老会のイニシアチブに従ってウェーサクの日が2004年(2547年)にニューヨークとバンコクで祝われることを承認し、

毎年5月の月の満月の日は、世界中の仏教徒にとって、ブッダの誕生と悟りの達成と入滅を記念する最も神聖な日であること、さらには、また、ブッダの偉大な慈悲と智慧と純粋さのうちにあるその徳を調和の中に生きる理想的な方法だとしてお祝いする最も神聖な日であることを認識し、

国連本部と他の国連事務所における国際的認知は、世界最古の宗教の一つである仏教が二千五百年以上にわたって人類の精神性に対してなしてきた、そして、今もなし続けている貢献を認めることを意味するものであり、それゆえ、仏教の歩みを維持するために仏教を守り広めることがきわめて重要であることを考え、

関連する国連事務所、および、相談に加わることを希望する常駐代表団と協議の上、国連に費用を負担させることなく、国連本部と他の国連事務所におけるウェーサクの国際的式典のための適切な準備が行われることを決議し、ニューヨークの国連本部と国連地域事務所の両方でウェーサクの日を祝うためにタイ国が他の仏教国との調整役に任命された。

それゆえ、私達はここに以下の通り合意する：

1. 私達は、仏教を維持し守ろうと、世界中の仏教信仰の対象物、仏教聖地を維持し保護しようと努力する。
 2. 私達は、仏教の研究と実践を通して世界の人々の心にブッダの気高いメッセージを届け、仏教が確実に広まるように努力する。
 3. 私達は、仏教を通して世界の人々の間の平和と調和と理解が促進されるように努力する。
1. 私達は、国際的な規模で協力し合って、ウェーサクの日を国連本部、国連地域事務所、そして、特に、タイ国バンコクの UNESCAP 事務所で祝うように努力する。

《2005年 バンコク宣言》

共同声明

2005年(仏暦2548年)5月18日-20日
於 タイ国、ナコン・パトム、ブッダモントン、
及び、タイ国、バンコク、国連会議センター

国連ウーサークの日国際仏教徒会議

2005年(仏暦2548年)5月18日-20日に、タイ国ナコン・パトムのブッダモントン、および、バンコクの国連会議センターで開かれた国連ウーサークの日国際仏教徒会議に41の国と地域から集まった私達は、タイ国政府とサンガ長老会がこの会議を支援して下さったことに留意しつつ、満場一致で次のように決議した:

1999年(仏暦2542年)に国連の総会によって採択された、5月の満月の日、ウーサークの日を国際的に認知し世界中で祝うという決議に従って、この式典はすべての仏教の部派によって合同で続けられる;

さらに、仏教指導者や学者達の継続的な対話と協力を通して、すべての仏教の部派、すべての仏教団体、そして仏教を信仰するすべての個人の間相互理解と協力を促進する、

また、ブッダの智慧と慈悲の教えに基づく平和のメッセージを広める、

仏教に関するこれらの問題を詳しく検討した結果、当会議は以下の通り合意した:

1. 仏教のすべての派の間の協力を強めて仏教徒の団結と連帯を促進することを決定。
2. 個々人、社会の間の相互理解、相互尊重、そして内的平和を促進するための教育を開発することに合意。
3. すべての青少年仏教徒の間の道徳面、倫理面の発達を強めるために現代の科学技術を利用した精神的ネットワークを創ることに留意すること。
4. 人類の利益のため、偏見のない人道主義的、社会的発展を目指して着実に活動していくこと。
5. 仏教の持つ普遍的な価値観を維持するために、仏教とその気高い教えを守る努力を行うこと。
6. 他の国々や地域が国際仏教徒会議を開催するのを支援することに合意、また、中国で開かれる世界仏教フォーラムを支援することに合意。
7. ブッダモントンを世界仏教センターとして、また、マハチュラロンコーン仏教大学を式典の調整役として認知すること、そして、国連ウーサークの日式典をタイ国で続けることを決定。

《バンコク宣言 2006年》

於タイ国、ナコン・パトム州ブッダモントン、及び、
バンコク、国連会議場

2006年（仏暦2549年）5月7日－10日
第3回国連ウーサクの日 国際仏教徒会議

共同声明

2006年（仏暦2549年）5月7－10日にナコン・パトム州ブッダモントン、及び、バンコクの国連コンファレンスセンターで開かれた国連ウーサクの日国際仏教徒会議に、世界46の国や地域から集まった我々参加者は、プーミポン・アドゥンラヤデート王の即位60周年を王国全土が喜び祝うこの時に、タイ王国の政府、並びに、タイ最高長老会議がこの会議への寛大なご支援を下されたことに謹んで感謝の意を捧げつつ、次の通り、満場一致で決議致しました：

1999年12月15日に、第54回国連総会において承認された、5月の満月の日にあたるウーサクの日が国際的に認められ、2000年以後国連本部と国連の地域事務所において祝われること、国連ウーサクの日がすべての仏教伝統国によって合同で祝われることを求める34カ国の代表による合同提議、議事条項174に関して；

さらに、すべての仏教伝統国、仏教組織、仏教徒の間の相互理解と協力を、仏教指導者達と学者達の間で行われている対話を通して強化するために、

仏陀の智慧と慈悲の教えに基づき、次の平和のメッセージを広めることが決定されました。

仏教と世界に関する諸問題を探った結果、本会議は次の通り合意しました：

- (1) 仏教徒間の統一と連帯を促進するために、すべての仏教の宗派間の協力を一層強化し高める。
- (2) 内心の平和の発展が果たす中心的役割を強調することにより、また、不調和を生み出す感情／思想、発言、そして行動を駆り立てる様々な動機に取り組むことを通して法の社会を創り出すための直接社会に参与する行動を促進する。
- (3) 世界中により多くの仏教瞑想センターを設立する。また、その目的のために、より多くの瞑想指導者を養成する。
- (4) まずは、ブッダ・ダルマ・エデュケーションとブッダ・ネット、及び、マハチュラロンコーン仏教大学の共同事業として、仏教内容を電子媒体に納めた中心的貯蔵場所としての電子ライブラリーを設立し、それを通して、子供、青年、大人のための一貫した使いやすい教材の作成を促進する。

- (5) 仏教を広める努力の一環として、世界中のホテルに無料で配布する仏教に関する情報誌を編集、出版する。また、これを促進するために、同作業を行う合同国際組織委員会の小委員会を作る。
- (6) 仏教の広報を担当する国際的な団体を作る。
- (7) 国連、ユネスコ、関係諸政府、関係省庁のすべてに、仏教徒の有形・無形の文化遺産を保存するよう促す。
- (8) 社会的行動主義に貢献し、新たな経済的枠組みの発展に協力する前向きな努力と、自己修養、ボランティア精神、質朴さ、上手な消費といった諸性質となって現れる、内的存在を変革する実践を促進する。
- (9) タイ国のプーミポン・アドゥンラヤデート国王陛下により推し進められている『充足経済』という哲学に例証される、中庸という仏教の中心的教義に基づいた持続可能な発展に全体的に取り組むことを奨励する。
- (10) 不公平で不均衡な発展による個人、社会、そして、生態系への損害に終止符を打ち、我々の努力を、経済への関心と生態系への関心の相互依存的統合に基づく持続可能な発展へ、さらには平和と安全へと向け直すために、男女の地位の改善が緊急であることを認める。
- (11) 2005年国連ウェーサクの日にタイのバンコクで開かれた国際仏教徒会議でその開催が支持されて、4月に中国の杭州で開かれた第1回世界仏教徒フォーラムの成功を記録する。また、法輪巧は仏教の基本的な教義と一致しないことを確認する。
- (12) 他の国々や地域に国際仏教徒会議の開催を奨励する。また、プーミポン・アドゥンラヤデート国王陛下の80歳の誕生日を記念して、2007年(仏歴2550年)のタイ国における国連ウェーサクの日の祝賀時に第4回国際仏教徒会議を開く。及び、
- (13) 必要な事後の活動を促進するための合同国際組織委員会の国際事務局の調整、及び、国連ウェーサクの日に開かれる第4回国際仏教徒会議の責任を、引き続きマハチュラロンコーン仏教大学に託す。

日付: 2006年5月10日、水曜日

《バンコク宣言 2007 年》

於、タイ国ナコン・パトム県ブッタモントン、及び
バンコク国連会議センター
2007 年（仏暦 2550 年、5 月 26 日－29 日

第 4 回 国連ウーサクの日の国際仏教徒会議

2007 年（仏暦 2550 年）、5 月 26 日－29 日に、ナコン・パトムのブッタモントンとバンコクの国連会議センターで開催された国連ウーサクの日第 4 回国際仏教徒会議に、61 の国と地域から集まった私達参加者は、タイ王国全土がプミポン・アドゥンヤデート国王陛下のめでたい 80 歳の誕生日をお祝いしている中、タイ王国政府とタイ国最高サンガ評議会がこの会議を寛大に主催して下さいましたことに深く感謝し、以下のことを満場一致で決議致しました：

1999 年 12 月 15 日に、第 54 回国連総会において、5 月の満月の日にあたるウーサクの日が国際的に認知され、その日は 2000 年から国連本部と国連の地域事務所でお祝いされるべきである、という 34 ヶ国の代表から合同で提出された議事項目 174 が可決されたが、その決議に完全に準拠して、国連ウーサクの日はすべての仏教部派によって合同でお祝いされること；

さらに、仏教指導者や仏教学者達の間での持続的な対話を通して、すべての仏教の部派、団体、そして個人の間での相互理解と協力を強固なものにすること。

仏陀の智慧と慈悲の教えに基づいた平和のメッセージを世界に広めることが決意された。

仏教と世界に関する諸問題を詳細に検討し、本会議は以下のことについて合意した：

- (1) 仏教徒間の結束と連帯を強めるために、すべての仏教宗派間の協力を一層押し進めること；
- (2) この 4 年にわたって国連ウーサクを主催したタイ国政府の寛大さに感謝しその果たした役割の重要性を認識すること、また、ベトナム社会主義共和国を 2008 年の主催国として認め、支援すること；
- (3) マハチュラロンコーン仏教大学を、国連ウーサクの日国際組織委員会の国際事務局の永久所在地として再確認すること；
- (4) 仏教の根本原理を通して社会に関わる活動を促進し、道徳的倫理的問題、特に、社会正義、平等な機会の尊重、良き統治、そして、透明性に関する問題について、仏教指導者達が指導的役割を果たすよう促すこと；
- (5) 60 年にわたる治世を通じて良き統治と発展を行なってきたタイ国の国王陛下に、多くの国や地域が、特に、仏教国と国連開発計画(UNDP)が感化を受け鼓舞されてきたが、どのような感化、鼓舞を受けてきたかを認識すること；
- (6) 2008 年に中国で行われる第 2 回世界仏教徒フォーラムを支援すること；

(7) ブッダ・ダルマ・エデュケーション、ブッダ・ネット、及び、マハチュラロンコーン仏教大学の共同事業として昨年始められた電子仏教ライブラリープロジェクトを継続すること、また、この会議に出席した多くの仏教高等教育機関がこのプロジェクトに強い関心を示したことを記録すること；

(8) 世界中のホテルに無料で配信するための仏教情報誌編纂プロジェクトを続けること；

(9) 有形、無形の仏教文化遺産を保護するよう、国連、ユネスコ、関係政府や省庁などすべての機関に繰り返し訴えること、そして、仏教聖地の再活性化の一部として、仏教徒に聖地訪問を奨励すること；

(10) 22 の国や地域の 80 以上の仏教高等教育機関からなる国際仏教大学連盟(IABU)がこの会議で設立されたという歴史的出来事を記録し、連盟がその機能を果たし成長するようあらゆる可能な手段で支援すること；

(11) 2008 年にバンコクにおいて、マハチュラロンコーン仏教大学の主催により、国際仏教大学連盟(IABU)の第2回シンポジウムを開催すること、また、同大学がIABUの国際事務局への資金提供を少なくとも1年間引き受けることを喜ぶこと；そして、

(12) 仏教の瞑想が人間開発に持つ実効的、科学的価値をあらゆるレベルで明らかにすること、そして、仏陀の教えの普及に伝統的方法と現代テクノロジーの両方を使うことを奨励すること、そしてまた、仏陀の像の使用に関する意識を高めること。

日付:2007/2550 年 5 月 29 日

《ハノイ宣言 2008年》

第5回 国連ウェーサクの日 国際仏教徒会議

2008年5月13～17日

ベトナム国ハノイ市国家会議センター

我々、74の国々と地域から2008年5月13～17日にベトナム国ハノイ市国家会議センターにて国連ウェーサクの日に開かれた国際仏教徒会議への参加者は、公正で民主的で文明的な社会の建設に対する仏教徒の貢献に関わる会議がベトナム社会主義共和国とベトナム仏教サンガの寛大な支援を得たことを有難く認識し、以下のことを全会一致で決議した。

1. 国際社会に対し、仏教的叡智と慈悲を以って、異なる宗教および国々間の対話、相互信頼、尊重、および人間としての尊厳を推進することで、持続可能な世界平和に向けた努力を強化するよう強く要請する。
2. 特に核兵器の実験、および化学・細菌（生物学）兵器の製造の禁止を含む軍備縮小によって紛争と戦争を回避することに努めると共に、海洋と内陸水の汚染防止に努める。
3. すべての人々の生活の質の向上を目指して全世界的な経済的、社会的、環境的、精神的開発を促進する。
4. 各国内部および各国間に平和と安全をもたらすために、社会のすべてのセクターにおける社会正義、民主主義、およびグッドガバナンスを推奨する。
5. 持続可能な方法での社会経済開発は、平和、並びに人権と基本的自由に対する尊重なくしては保障されないことを認識する。
6. 環境と調和の取れた健康で生産的な生活を保障するために、国家レベルと国際レベルにおける環境の保護と改善に関する法的で行政的な措置に向けて貢献する。
7. 気候変化やその他の形態の環境破壊が、既に人類の健全な暮らしを蝕んでおり、これらの変化を最小限に食い止めるための行動が至急必要であることを確認する。
8. 気候変化の脅威を増大し、地球上のあらゆる生物を危険に晒す生態系の平衡失調につながる現代的な生活トレンドや天然資源の誤使用を中止するための能動的な対策の追求に重点を置く。
9. 個々人、家族、およびコミュニティ全体の道徳的、精神的要求を遍く認識し、対応する。
10. 世界的な社会問題、とりわけ、貧困、失業、社会正義の問題の解決が必要とされていることを認識する。
11. 出家者や在家者が地域的、世界的問題や危機に立ち向かうことができるようになるには、彼らに対する教育の近代化が継続的に必要であることを認識する。
12. 社会的な生活への能動的な参加を阻害するすべての要因を取り除くために、特に少女、婦人、および恵まれない人々に対する基本教育の付与と教育の質的改善を図る。
13. 安定した結婚生活や個々人の幸福に仏教徒的調和、理解、慈悲の原則を用いることによって家族の絆を強化する。
14. 重要性を増す情報工学を重視し、社会的利益に資するための賢明な技術利用に向けた指針を提供する。
15. 先進地域のユーザーと資源が乏しい未開発地域のユーザーと間の溝を埋めるために、ユーザーによって簡単にアクセス可能なインターネットマテリアルを開発する。
16. 2008年11月に中国で開催予定の第2回世界仏教徒フォーラム、2008年に日本で開催予定の第5回世界仏教徒サミット、2008年9月にタイ国バンコク市で開催予定の第1回国際仏教大学協会会議、並びに世界仏教徒フェロシップ(WFB)やインナートリップ霊友会インターナショナル(ITRI)の活動を含む主要な国際仏教イベントを支持する。

日付：西暦2008年／仏暦2551年5月17日